# 第１３４回　経営協議会議事録

日　時　令和８年６月１９日（木）14 時 00 分～16 時 35 分

場　所　和歌山大学南１号館（事務局棟）３階共通会議室

出席者　本山学長

木村委員、清水委員、関委員、築野委員、松田委員、宮下委員

添田、野村、生方、岩田、山形　各理事

（福田監事、内川監事、足立副学長、山﨑教育学部長、金川経済学部長、中村システム工学部長、大浦観光学部長、竹内社会インフォマティクス学環長、満田戦略情報室長、松本参与、南方副理事、中村副理事、吉田イノベーションイニシアティブ基幹副基幹長、阿部教育機構副機構長、小河 Well-being 機構キャンパスライフ・健康支援センター長、小田企画課長、中井総務課長、金谷人事労務課長、上續財務課長、津田国際交流課長）

欠席者　北村委員、矢倉委員

学長から、第１３３回（令和８年３月１９日）の議事録について確認があった。

はじめに、木村委員および生方理事から挨拶があった。また、各学部、基幹等より、令和７年度のそれぞれの取組成果等について説明があった。

議　題：

１．令和７事業年度決算（案）について

生方理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）

・耐震補強は学校施設では必須であると考えるが、どのようになっているか。

→耐震については、国も優先課題としていることであり、子どもたちの生命、安全という観点では附属学校も含め対応できている。施設改修も少しずつ進めている。

２．令和９年度概算要求（案）について

生方理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）

・教育研究組織改革分のイノベーションイニシアティブ基幹は継続事業ということであるが、令和９年度が５年目となり教育研究組織改革分としては最終年度である。令和10年度以降の財源はどのようになるか。

→令和10年度の概算要求において、これまでの活動実績や今後の見通しを整理し、基幹運営費交付金の基幹経費として要求していきたいと考えている。なお、必要に応じて学内予算の一部を充当することも想定している。

・冒頭にご説明いただいた令和７年度の取組成果について、今後もさらにしっかり取り組み、基幹経費の獲得へ活かして欲しい。

・令和７年度の決算において、減価償却引当特定資産の計上を和歌山大学では初めて行い、計画的に教育研究設備の更新を行うために１億円を積み立てるとのことだが、この計画はどの程度の規模あるいは期間を想定しているのか。

→本学は教育研究設備の８割超が老朽化している。国から交付される資金で更新できない設備については、当該減価償却引当特定資産を活用し、教育研究に支障をきたすことのないように優先的に更新を行っていきたい。また、当該財源は施設整備にも使用可能であることから、施設整備費補助金の概算要求で採択されなかった施設整備もあわせて、早急に優先順位を整理したうえで対応したいと考えている。しかし、現時点では具体的な計画として整理できている段階にはない。

・大学でも企業でも、新しい機器を導入していかないと国内外の研究動向に対応できなくなる。新しい機器を導入するためには研究費を確保することが大変重要で、大学としては積極的に国へ予算要求する必要があると考える。

→研究に支障が生じないよう、１億円を超える設備については文部科学省へ要求するようにしている。今回初めて計上する減価償却引当特定資産も、有効に活用していきたい。

・財政上の根幹的な問題に人件費がある。国からの経費措置が５年で終了し、その後大学で自走する際に、必要な人件費も大学で飲み込まなければならず、その結果人件費率が上昇し、研究費を圧迫することになる。基幹経費化できないと大学運営に影響が生じ得るため、必要な財源の確実な確保を心掛けて欲しい。

→基幹経費化されるためには５年間の成果が重要となる。これまでの成果も踏まえて引き続き精力的に取り組むとともに、文部科学省に対しても優先順位を整理しつつ、様々なタイミングで継続的に要求していく方針である。

３．国立大学法人評価（第４期中期目標期間４年目終了時評価）について（案）

添田理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）

・取組の中で、実績を上げていても評価に結びついていないものはないか。意欲の低下につながっていないか懸念される。

→各部局の努力全てが中期目標・中期計画のKPIに必ずしも直結するわけではない。例えば、KPIに設定している共同研究件数などは、進展しているものの成果として数値化されるまでにタイムラグがあり、４年目終了時点の数値としては評価に十分反映されていない状況にある。取り組んでいる方々からすると悔しい思いをしているかもしれない。また、外部資金獲得のうち寄附金（基金）は特殊要因を考慮する方法で第４期は評価することとしているため、この特殊要因に当てはまる大型の寄附金（基金）は評価に反映されておらず、寄附者に対しても申し訳ないと感じている。

・KPIについては、全体として見ると当初に立てた計画の達成に向けて着実に進んでおり、様々な取組に活かされていることから、大学運営において重要な役割を果たしていると考える。ただし、KPIは数字をクリアすることが目的となってしまうと、本来の趣旨から逸脱するため、取組の意義を組織全体で共通理解することが重要である。

・前回説明のあった「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の評価指標でも、常勤教員当たりの外部資金獲得額は他大学と比較すると低く課題であるが、数字ばかりでなく、活動をより良い方向に発展させるために外部資金が必要だという考え方が重要である。

→近年はスタートアップのような形で企業から支援をしていただくような取組も進めているところ。引き続き外部資金獲得にも努力していきたい。

４．第４期中期目標・中期計画等に関する令和７年度自己点検・評価について（案）

添田理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

報　告：

１．令和７年度大学機関別認証評価評価結果について

添田理事から、資料に基づき説明があった。

２．イノベーション・コモンズ助成事業の申請について

松本参与から、資料に基づき説明があった。

３．文部科学省「地域構想推進プラットフォーム」構築等推進事業への申請について

小田企画課長から、資料に基づき説明があった。

また、最後に、学長から、今月末で経営協議会委員を退任する矢倉委員へのお礼の挨拶があった。

以　　上